

学校における働き方改革プランに係る  
取組状況調査結果  
(令和 2 年度 / 県立学校)

令和 3 年 8 月  
青森県教育委員会

## 1 目的

県教育委員会では、教職員の負担を軽減し、長時間勤務の是正を図ることで、教職員がワーク・ライフ・バランスの取れた生活を実現し、健康でやりがいをもって働くことや、教職員が子どもと向き合える時間を十分に確保し、学校教育の質を維持・向上させることにより、本県教育の更なる充実につながるよう、令和2年3月に「学校における働き方改革プラン」を策定し、令和2年度から令和4年度までの3年間を重点期間として、取組を進めているところです。

この取組について、令和2年度末時点での県立学校における取組状況を調査し、調査結果を取りまとめました。

各取組項目に係る実施状況及び効果の有無について評価し、課題等を整理することにより、学校における働き方改革をより一層推進します。

## 2 取組項目

### 【学校における取組】

#### (1) 働きやすい環境を構築するための方策

- ①教職員の意識改革（休暇の取得促進）
- ②職員間の信頼関係構築
- ③職員間の業務の平準化
- ④業務が集中した場合のサポート体制の整備
- ⑤複数担当制等の工夫
- ⑥弾力的な勤務時間の割振り
- ⑦教職員の勤務状況の把握の徹底
- ⑧地域の人材の有効活用

#### (2) 部活動による負担を軽減するための方策

- ①部活動数の精選
- ②活動内容の制限（標準的な活動内容の共通理解）

#### (3) 会議・打合せを効率化するための方策

- ①会議等の運営方法の工夫
- ②会議等の資料の取扱いの工夫

#### (4) 成績処理、その他の業務処理を効率化するための方策

- ①校務へのICT活用の推進
- ②報告書の様式等の簡素化
- ③教育委員会が実施する調査等への対応
- ④学校徴収金の口座振替の推進

#### (5) 学校行事の負担を軽減するための方策

- ①学校の規模や地域の実情等に見合った行事の見直し

## 3 目標

県立学校における時間外勤務時間が上限時間（一箇月当たり45時間、一年当たり360時間）の範囲内となるよう、令和4年度までに平成30年度比で25%の削減を目指す。

一箇月当たりの時間外勤務時間	高校：H30 約59時間 → R4 約45時間
	特支：H30 約25時間 → R4 約20時間

# 調査結果

1	各項目の取組状況	.....	3
2	一箇月当たりの時間外勤務時間	.....	4
3	一年当たりの時間外勤務時間	.....	5
4	調査結果まとめ（1年目）	.....	6
5	学校における働き方改革に資する好事例	.....	7
6	取組状況の調査結果詳細	.....	8
7	時間外勤務時間集計結果 （高等学校・特別支援学校）	.....	29

# 1 各項目の取組状況

## (1) 各取組項目の取組状況及び効果の有無

回答：県立高59校・特20校 計79校

【取組項目】	実施校数	実施率	効果あり	効果率
<b>取組1 働きやすい環境を構築するための方策</b>		<b>95.3%</b>		
①教職員の意識改革（休暇の取得促進）	79	100.0%	77	97.5%
②職員間の信頼関係構築	79	100.0%	78	98.7%
③職員間の業務の平準化	75	94.9%	71	94.7%
④業務が集中した場合のサポート体制の整備	77	97.5%	73	94.8%
⑤複数担当制等の工夫	74	93.7%	69	93.2%
⑥弾力的な勤務時間の割振り	60	<b>75.9%</b>	57	95.0%
⑦教職員の勤務状況の把握の徹底	79	100.0%	77	97.5%
⑧地域の人材の有効活用	79	100.0%	74	93.7%
<b>取組2 部活動による負担を軽減するため方策</b>		<b>86.6%</b>		
①部活動数の精選	49	<b>73.1%</b>	37	<b>75.5%</b>
②活動内容の制限（標準的な活動内容の共通理解） ※部活動をしていない12校を除いて実施率を算定。	67	100.0%	64	95.5%
<b>取組3 会議・打合せを効率化するための方策</b>		<b>98.1%</b>		
①会議等の運営方法の工夫	77	97.5%	72	93.5%
②会議等の資料の取扱いの工夫	78	98.7%	76	97.4%
<b>取組4 成績処理、その他の事務処理を効率化するための方策</b>		<b>96.2%</b>		
①校務へのICT活用の推進	79	100.0%	78	98.7%
②報告書の様式等の簡素化	73	92.4%	72	98.6%
③教育委員会が実施する調査等への対応	77	97.5%	73	94.8%
④学校徴収金の口座振替の推進	74	93.7%	73	98.6%
<b>取組5 学校行事の負担を軽減するための方策</b>		<b>89.9%</b>		
①学校の規模や地域の実情等に見合った行事の見直し	71	<b>89.9%</b>	68	95.8%

## (2) 調査結果

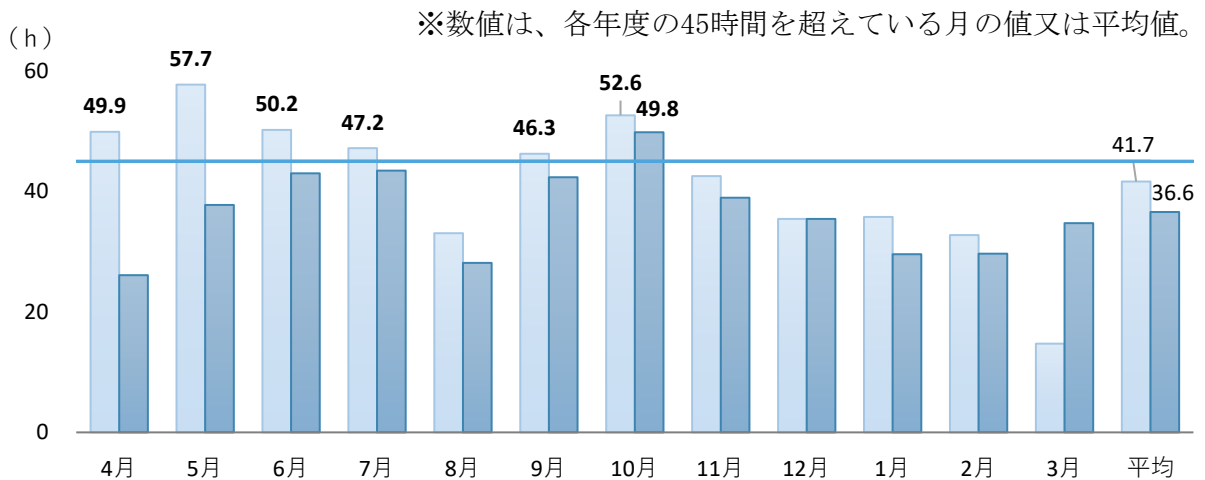
- ・「実施率」が9割未満の項目は、17項目中3項目であった。
  - 【取組1⑥】弾力的な勤務時間の割振り
  - 【取組2①】部活動数の精選
  - 【取組5①】学校の規模や地域の実情等に見合った行事の見直し
- ・「効果あり」が9割未満の項目は、17項目中1項目であった。
  - 【取組2①】部活動数の精選

## 2 一箇月当たりの時間外勤務時間

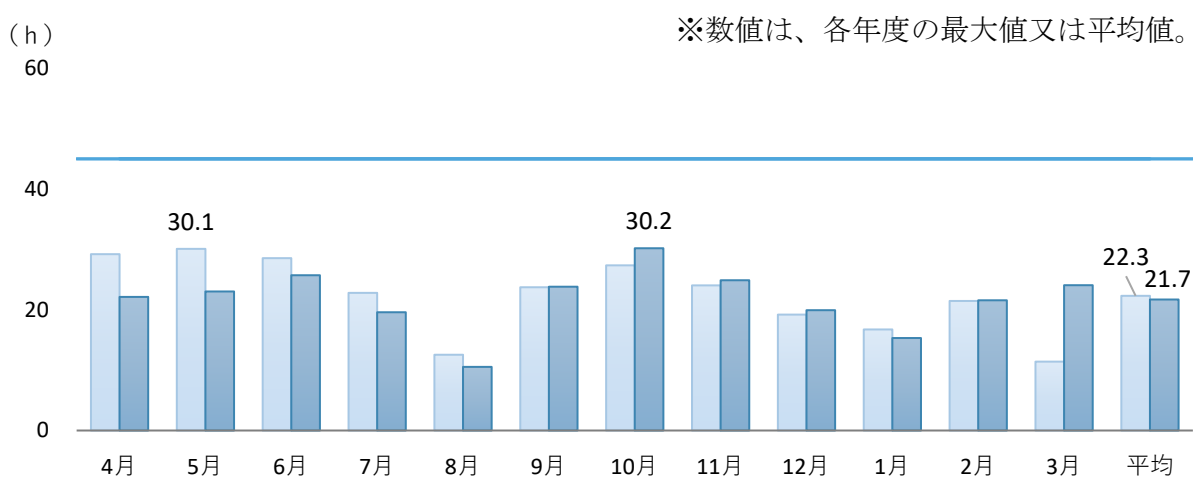
### (1) 教育職員の一箇月当たりの時間外勤務時間の実績

※左：R1実績、右：R2実績

(高等学校)



(特別支援学校)



### (2) 調査結果

#### 【高等学校】

- ・ 高等学校教育職員の一箇月当たりの時間外勤務時間について、上限時間である45時間を超えている月がR1は6回あったが、R2は1回に減少した。
  - ・ R2の時間外勤務時間の平均は36.6時間であり、H30の59時間から22.4時間（約38%）減少した。
- ※ ただし、R2.3からR2.5までは新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨時休校があったこと等に留意すること。

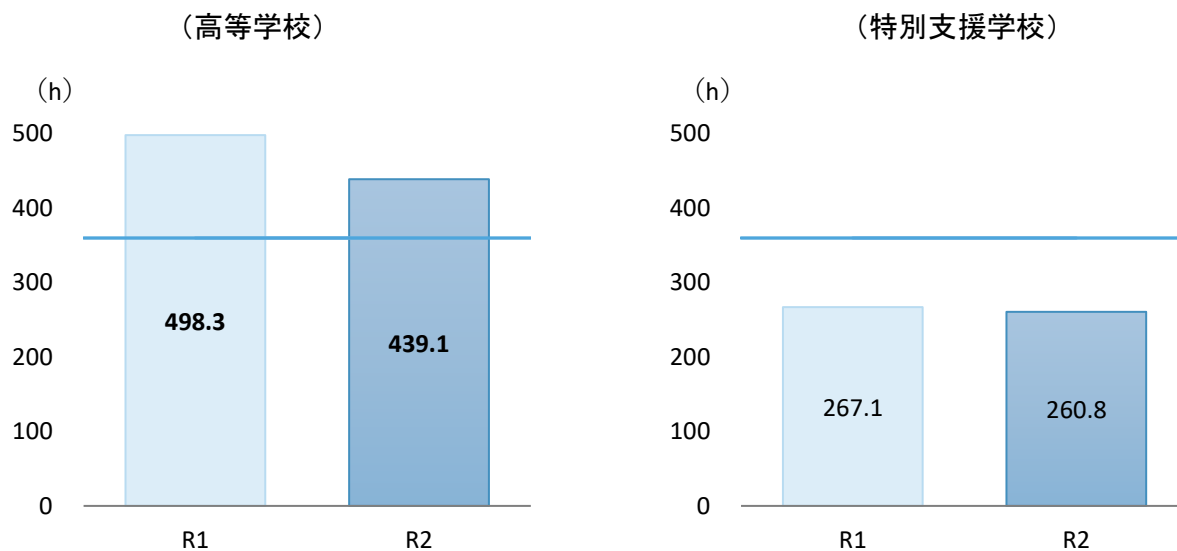
#### 【特別支援学校】

- ・ 特別支援学校教育職員の一箇月当たりの時間外勤務時間について、上限時間である45時間を超えている月はR1、R2いずれも無かった。
- ・ 一箇月当たりの時間外勤務時間の平均は、R1が22.3時間、R2が21.7時間となっており、ほぼ変動はなかった。

### 3 一年当たりの時間外勤務時間

#### (1) 教育職員の一年当たりの時間外勤務時間の実績

※左：R1実績、右：R2実績



#### (2) 調査結果

##### 【高等学校】

- ・ 高等学校教育職員の一年当たりの時間外勤務時間について、R2はR1から約60時間（約12%）減少したものの、上限時間である360時間を超えている。

##### 【特別支援学校】

- ・ 特別支援学校教育職員の一年当たりの時間外勤務時間について、R1、R2いずれも上限時間である360時間以内となっている。

## 4 調査結果まとめ（1年目）

### 令和2年度の実績

#### 時間外勤務時間の状況

- 一箇月当たりの時間外勤務時間（年平均）  
高校：R2 36.6時間 < 上限45時間 特支：R2 21.7時間 < 上限45時間
- 一箇月当たりの時間外勤務時間が45時間を超えている月数  
高校：R1 6回 → **R2 1回** 特支：R1、R2いずれも0回
- 一年当たりの時間外勤務時間  
**高校：R2 439.1時間 > 上限360時間** 特支：R2 260.8時間 < 上限360時間

#### プランの取組状況

##### 取組状況

- 「実施率」が9割未満 3/17項目  
【取組1⑥】弾力的な勤務時間の割振り  
【取組2①】部活動数の精選  
【取組5①】学校の規模や地域の実情等に見合った行事の見直し
- 「効果あり」が9割未満 1/17項目  
【取組2①】部活動数の精選



##### 考慮すべき事項等

- 【取組1⑥】  
学校の必要に応じて活用する制度である。
- 【取組2①】  
生徒や卒業生、地域住民等の意向も影響している。
- 【取組5①】  
R2は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、多くの行事がやむを得ず中止・縮小された。

### 今後の対応



一箇月当たりの時間外勤務時間について、年平均では目標である45時間を下回っているものの、月毎に見た場合、45時間を上回っている月があること、一年当たりの時間外勤務時間が360時間を上回っていることから、引き続きプランに基づき時間外勤務時間の縮減に取り組む。

- ア 県教育委員会において、引き続き県立学校全体の時間外勤務時間を把握し、公表する。
- イ 各学校において、時間外勤務時間の実績を全教職員と共有し、更なる取組を促す。
- ウ 取組項目について、「実施率」及び「効果あり」の回答率が高い取組は継続する。
- エ 県教育委員会から県立学校へ、県立学校から教職員や生徒、卒業生等への働きかけ。  
【取組1⑥】弾力的な勤務時間の割振りについて、必要な場合には積極的に活用するよう、引き続き県教育委員会から学校に働きかける。  
【取組2①】部活動数の精選について、教職員や生徒、卒業生等の理解が得られるよう、引き続き学校から働きかける。  
【取組5①】新型コロナウイルス感染症の収束後においても、より一層積極的に見直しを進めるよう、引き続き県教育委員会から働きかける。
- オ 学校における働き方改革に資する好事例について学校と共有し、積極的な導入を働きかける。

## 5 学校における働き方改革に資する好事例

### 【取組1】休む

- ・ 「休むことが悪いことだ」という意識を持たせないような雰囲気を作っている。
- ・ 「パワーアップ年休」と称して、月間行事予定に個人の休暇予定を記入する欄を設けて回覧し、年16日以上の子休取得を目指している。
- ・ 定期考査の午後に行事を入れていない。
- ・ 長期休業中や定期考査の午後等は、急な時休にも対応している。
- ・ 生徒と向き合う環境を整備することを目的として、毎週月曜日を定時退勤日及び部活動休養日とし、放課後講習や個別学習指導、面談等も実施しないこととしている。
- ・ 月に1回定時退勤日を設けたところ、徐々に定着してきたため、月に複数回の実施を検討している。
- ・ 生徒の下校時間や部活動の休日を徹底した。
- ・ 部活動に係る活動方針を定め、休養日及び終了時刻を設定している。

### 【取組2】活かす

- ・ 公務員対策講習は、外部講師と連携して取り組んでいる。
- ・ 多くの部活動で外部コーチを委嘱している。
- ・ 学年行事であっても、学年外の教職員の応援体制を整え業務の分散化を図っている。
- ・ 校内ネットワーク上に共有フォルダ「掲示板」を作成し、素早く情報共有を図ると同時に、資料の印刷・配付に要する労力を軽減している。
- ・ アンケート調査の集計にITを導入している。
- ・ 緊急配信メールシステムを活用し、生徒・保護者からの問合せの減少を図っている。
- ・ 校長のスケジュールを校内グループウェアに公開することで、職員が計画的に起案を行えるようにした。
- ・ 勤務時間労働記録簿、長期休業中勤務予定表、自己目標・自己評価シート、分掌・顧問希望調査を、全て電子データによる提出に変更した。
- ・ 生徒の志望理由書等を電子データで作成させ、クラッシーを活用して対応している。

### 【取組3】減らす

- ・ 学校運営協議会で「やらない」「減らす」という目標設定をすることも大事ではないか、という意見があったため、学校経営方針に位置付けるとともに、各教員の自己目標として設定し、業務の見直しを進めている。
- ・ 校内グループウェアを活用し、職員朝会を週2回に減じた。
- ・ 学校日誌に記載する職員の休暇について、従来は教頭が庶務システムから電子データを印刷し、教務部が学校日誌の電子データに入力していたが、庶務システムの電子データを教務部と共有することで、手間を削減した。
- ・ 各種会議の機能を整理し、手続を見直した。
- ・ 簡易起案、簡易復命を導入した。



## 6 取組状況の調査結果詳細

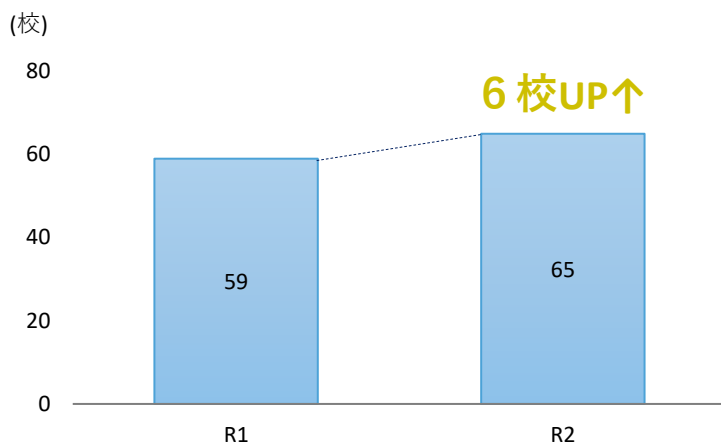
(1) 学校における働き方改革に向けての具体的な指針、計画、目標等	.....	9
(2) 学校における働き方改革プランに掲げる学校における取組について、各校が令和2年度に取り組んだもの	.....	10
取組1 働きやすい環境を構築するための方策	.....	10
①教職員の意識改革（休暇の取得促進）		
②職員間の信頼関係構築		
③職員間の業務の平準化		
④業務が集中した場合のサポート体制の整備		
⑤複数担当制等の工夫		
⑥弾力的な勤務時間の割振り		
⑦教職員の勤務状況の把握の徹底		
⑧地域の人材の有効活用		
取組2 部活動による負担を軽減するための方策	.....	18
①部活動数の精選		
②活動内容の制限（標準的な活動内容の共通理解）		
取組3 会議・打合せを効率化するための方策	.....	20
①会議等の運営方法の工夫		
②会議等の資料の取扱いの工夫		
取組4 成績処理、その他の事務処理を効率化するための方策	.....	22
①校務へのICT活用の推進		
②報告書の様式等の簡素化		
③教育委員会が実施する調査等への対応		
④学校徴収金の口座振替の推進		
取組5 学校行事の負担を軽減するための方策	.....	26
①学校の規模や地域の実情等に見合った行事の見直し		
(3) 学校における働き方改革に係る課題	.....	27

## (1) 学校における働き方改革に向けての具体的な指針、計画、目標等

学校における働き方改革に向けての具体的な指針、計画、目標等を策定しているか。

回答：県立高59校・特20校 計79校

	R1	R2
学校数	59	65
策定率	74.7%	82.3%



### ○調査結果

- ・ R1と比較して6校が新たに指針等を策定し、8割以上の学校で指針等が策定された。

## 【取組1】働きやすい環境を構築するための方策

### ① 教職員の意識改革（休暇の取得促進）

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 職員の年次休暇の計画的利用を会議等で促した。	74	93.7%
イ 職員の子どもの学校行事等があったときに職員が年次休暇を取得できるよう配慮した。	65	82.3%
ウ 長期休業期間における年次休暇の積極的利用を推進した。	75	94.9%
エ 学校閉庁日を設定した。	78	98.7%
オ 業務改善に係る好事例を周知したり、「ノー残業デー」を設定するなどした。	20	25.3%
カ 休暇制度や子育て支援制度について周知した。	48	60.8%
キ その他	4	5.1%
ク 特に実施していない。	0	0.0%

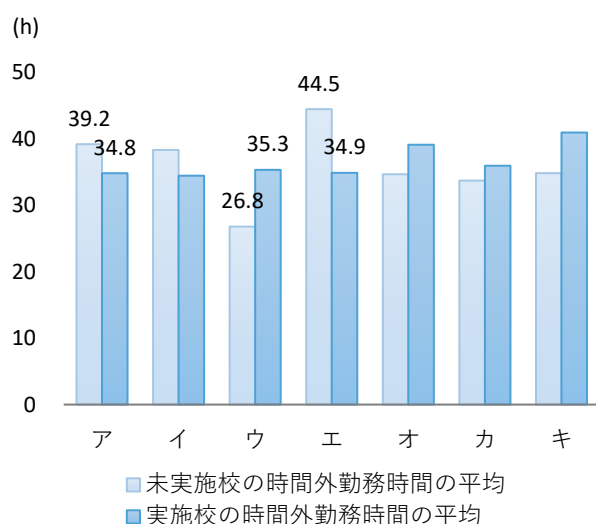
#### ※「その他」の主な取組

- ・「多忙化解消のための提案」募集を職員に呼びかけ、提案事項を職員会議等で開示したり、検討するなどした。
- ・職員通信で「学校における働き方改革プラン」を紹介した。
- ・月2回「ノー会議デー」を設け、積極的な休暇取得を促した。

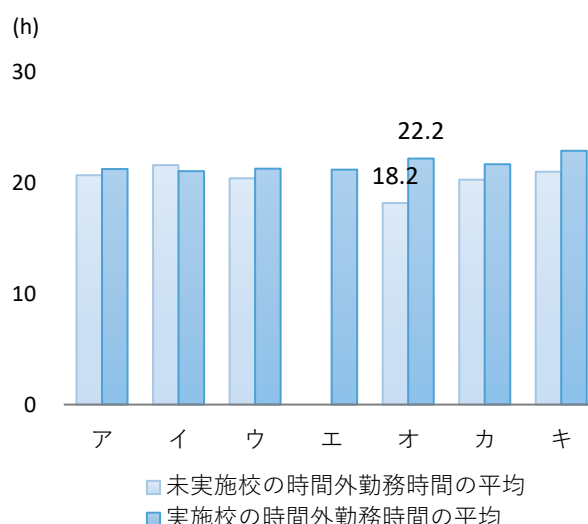
### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



### ○ 主な課題

- ・年休の取得に積極的な職員と消極的な職員とがいる。また、クラス担任は休暇を取得しづらい雰囲気がある。
- ・業務量が多く、年休を取得することが出来ない。
- ・R2はコロナ禍のため部活動の休養日を設けることが出来たが、平時に戻った時に、休養日をいかに遵守させるかが課題である。

## 【取組1】働きやすい環境を構築するための方策

### ② 職員間の信頼関係構築

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア グループウェア等の活用により各種情報を迅速に伝達するなど、職員同士のコミュニケーションの向上や風通しのよい職場の実現を図った。	71	89.9%
イ 職員同士のコミュニケーションをうまく図り、組織として問題を解決する体制を築いた。	46	58.2%
ウ 職員が気兼ねなく情報交換や相談できる雰囲気醸成した。	66	83.5%
エ ハラスメントを防止し、メンタルヘルスに理解のある職場とした。	50	63.3%
オ その他	0	0.0%
カ 特に実施していない。	0	0.0%

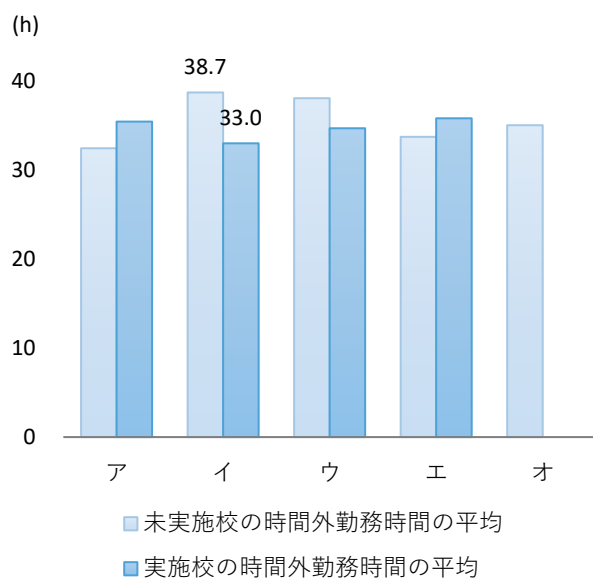
#### ※「その他」の主な取組

—

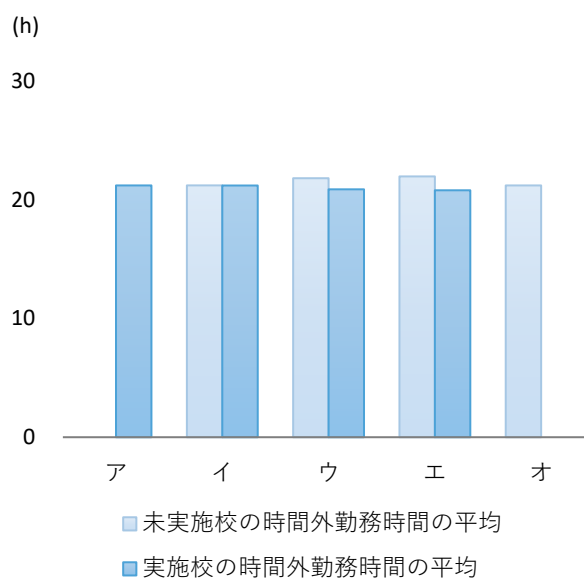
### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



### ○ 主な課題

- ・ 信頼関係を壊さないよう、管理職が当事者と話し合いを持ち、適切な助言をしなければならない。
- ・ グループウェアの活用が定着しない。

## 【取組1】働きやすい環境を構築するための方策

### ③ 職員間の業務の平準化

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 業務運営が効率化、効果的になされるよう、校務分掌等を見直した。	53	67.1%
イ 職員の勤務状況に応じて業務量が適正になるように校務分掌を調整したり、一個人に業務が集中しないよう人員配置を工夫した。	59	74.7%
ウ 職種間で業務を分担し合える体制をつくった。	40	50.6%
エ その他	1	1.3%
オ 特に実施していない。	4	5.1%

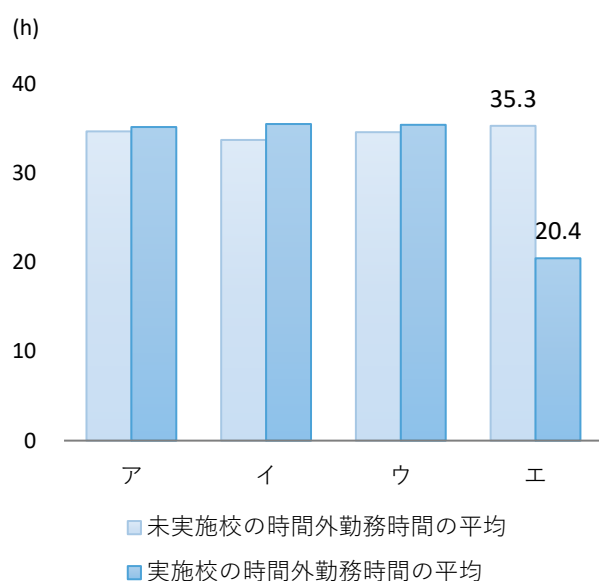
#### ※「その他」の主な取組

- ・ 分掌主任に対して、一人で業務を抱えず、部員に分担するようアドバイスしている。

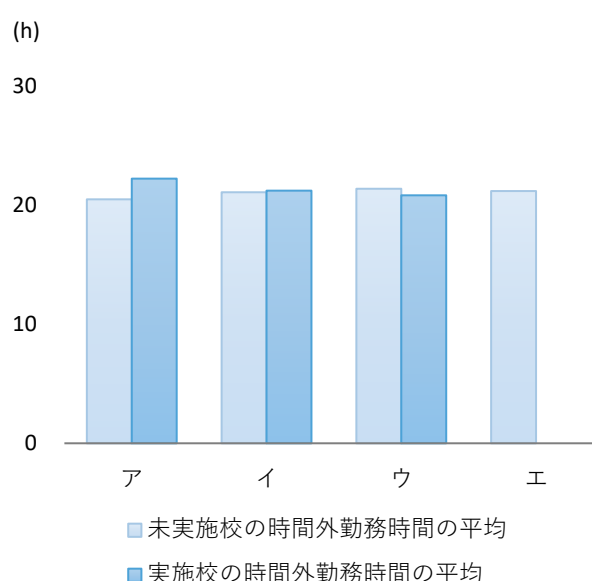
#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



#### ○ 主な課題

- ・ 平準化を図っても、時期によって、特定の分掌に業務が偏る。
- ・ 責任感から業務を一人でこなそうとし、業務量過多となっている。
- ・ 業務の理解が深い職員に業務が集中する。

## 【取組1】働きやすい環境を構築するための方策

### ④ 業務が集中した場合のサポート体制の整備

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 外部機関などの連絡調整は教頭や主任などが窓口となり、担当者をサポートするようにした。	66	83.5%
イ 分掌間をつなぐ役割を持った職員を配置し、情報の共有を図った。	20	25.3%
ウ 業務が集中する時期に、分掌内や、他の分掌の職員が協力する体制づくりを行った。	50	63.3%
エ 心理面での外部カウンセラーや、特別な支援を必要とする生徒を担当する教員のサポート体制など、支援体制を構築した。	39	49.4%
オ その他	1	1.3%
カ 特に実施していない。	2	2.5%

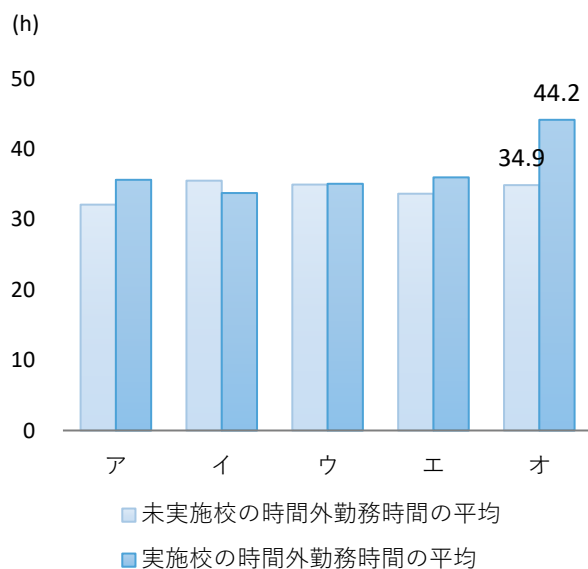
#### ※「その他」の主な取組

- ・ 特別支援を要する生徒や家庭との連携が必要になる生徒、児童相談所の支援を要する生徒については、学年主任と教頭が担当し、担任をサポートすることで負担軽減を図った。
- ・ 進路指導における3学年の負担を軽減するため、面接及び進路志望書に係る指導は全職員で取り組んだ。

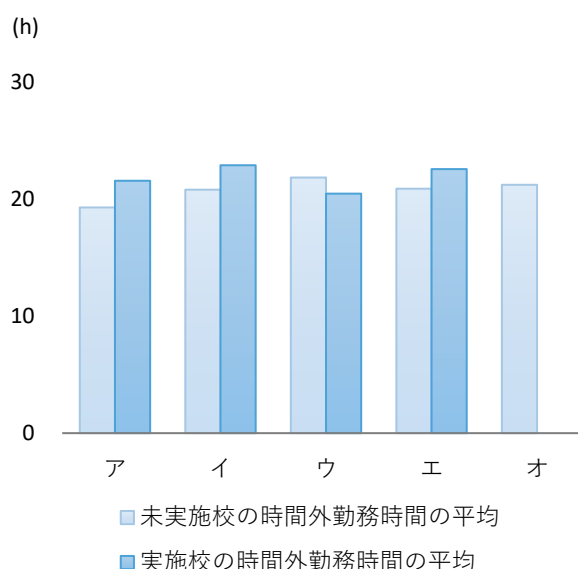
#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



#### ○ 主な課題

- ・ 主任や主担当者に業務が集中してしまう。
- ・ 責任感が強い人ほど業務過多となる。
- ・ スクールカウンセラーが常勤でないため、情報共有や助言を受けることが難しい。

## 【取組1】働きやすい環境を構築するための方策

### ⑤ 複数担当制等の工夫

回答：県立高59校・特20校 計79校

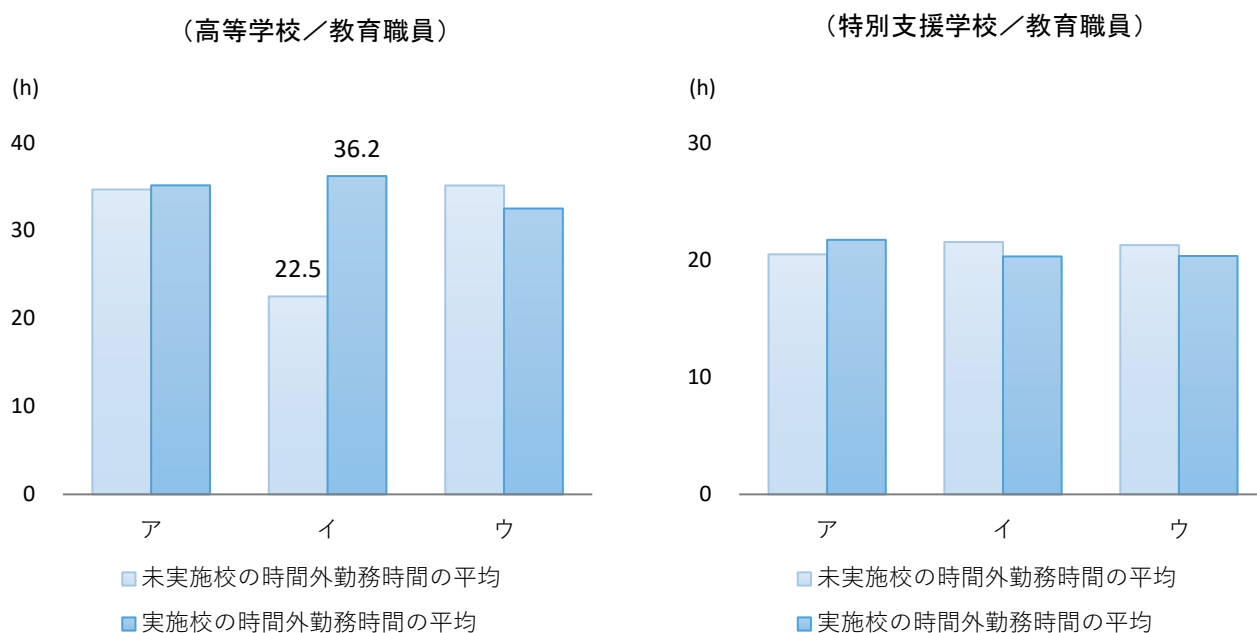
	回答数	実施率 (%)
ア 各分掌で主担、副担を設けたり、分掌間の連携を図るための職員を置くことにより、業務の偏りを防いだ。	58	73.4%
イ 部活動に関しては複数の顧問を配置し、引率等の業務には担当者が分担して対応した。	59	74.7%
ウ その他	3	3.8%
エ 特に実施していない。	5	6.3%

#### ※「その他」の主な取組

- ・ 休業日の指導を交代で行い、休日に休める体制となった。
- ・ 学校運営協議会で、外部講師としての地域人材の活用について諮った。

#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。



#### ○ 主な課題

- ・ 専門性を要する部活動等は、指導可能な教員への負担が大きい。
- ・ 複数の部活動を担当している職員は引率等の業務が増加している。
- ・ 複数体制にはしているが、主担当者が責務を感じており、分担する業務量を増やすことが難しい。
- ・ 副担当者の活用場面を具体的に設定する必要がある。
- ・ 複数の部活動の顧問となっている教員は引率等業務が増えている場合がある。

## 【取組1】働きやすい環境を構築するための方策

### ⑥ 弾力的な勤務時間の割振り

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 文化祭や体育祭、その準備において、勤務時間を弾力的に割り振っている。	35	44.3%
イ 登下校指導の際、勤務時間を弾力的に割り振っている。	24	30.4%
ウ その他	16	20.3%
エ 特に実施していない。	19	24.1%

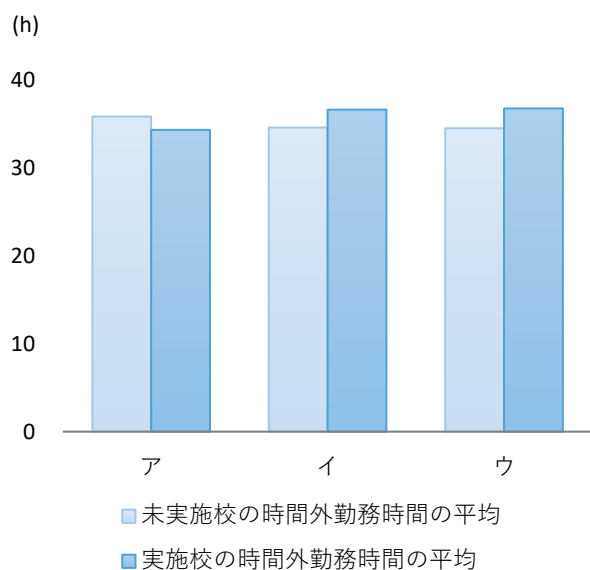
#### ※「その他」の主な取組

- ・ 入学者選抜の際の勤務時間を弾力的に割り振った。
- ・ 進路関係や作品展、PTA関係行事、その準備において、勤務時間を弾力的に割り振った。
- ・ 会議が時間外まで長引く場合に勤務時間を弾力的に割り振った。

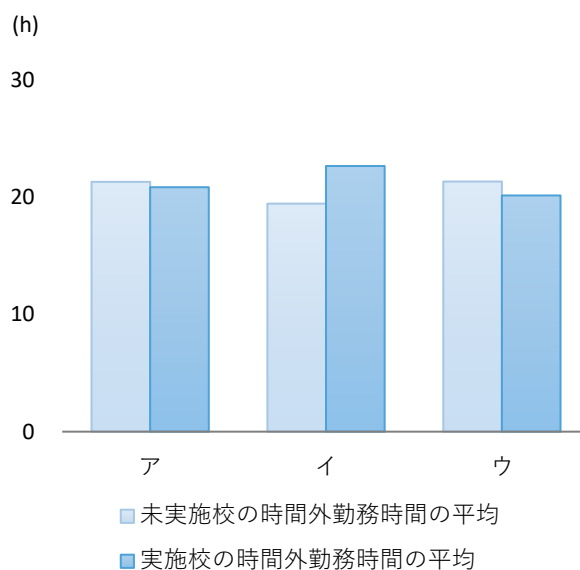
#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



#### ○ 主な課題

- ・ 4週間単位の変形勤務について、業務量が多く、振替を行っても出校しなければならない場合がある。



## 【取組1】働きやすい環境を構築するための方策

### ⑦ 教職員の勤務状況の把握の徹底

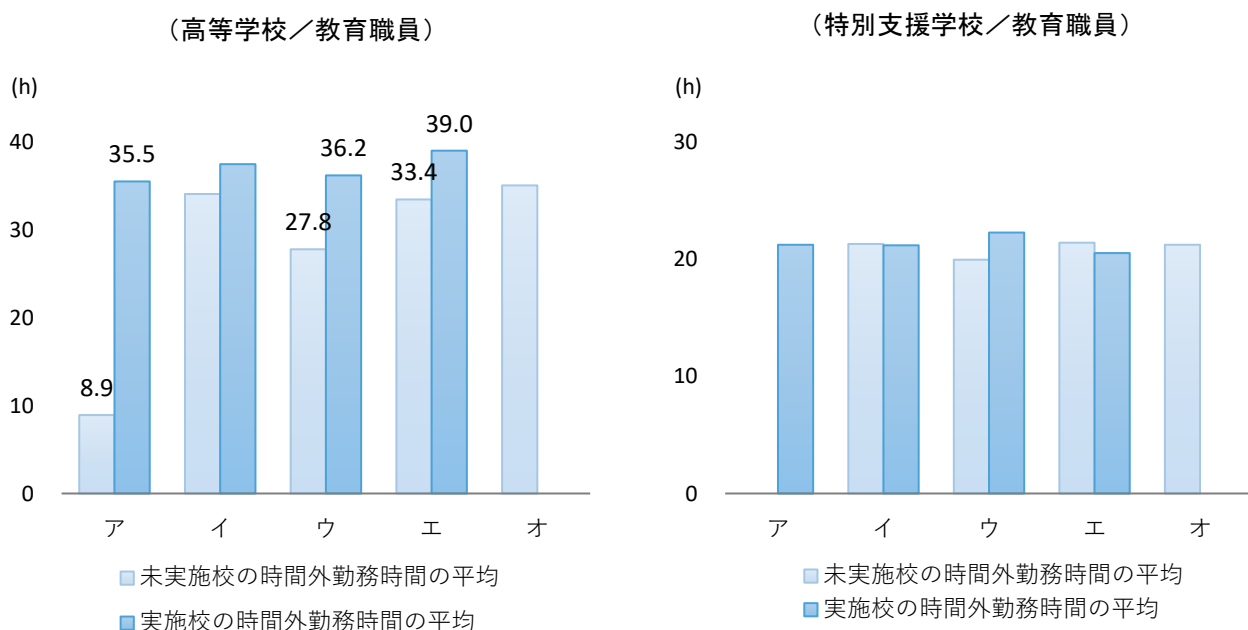
回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 教職員勤務時間記録簿等により、各自が勤務状況を把握し、労働時間の縮減を意識するよう促した。	78	98.7%
イ 学校全体の勤務時間の状況を共有し、学校全体として労働時間の縮減に取り組んだ。	29	36.7%
ウ 長時間勤務の職員については、管理職との面談などを通して、労働時間縮減を促した。	62	78.5%
エ 実際より短い虚偽の時間を記録しないよう指導した。	21	26.6%
オ その他	0	0.0%
カ 特に実施していない。	0	0.0%

#### ※「その他」の主な取組

### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。



### ○ 主な課題

- ・ 勤務時間記録簿に虚偽の記載をしている職員、休日出勤を報告しない職員がいる。
- ・ 長時間勤務の職員が固定化されているため、定期的に声がけをしながら健康状況を確認しなければならない。
- ・ 熱心な教員ほど長時間勤務になりがちであるが、やりがいを感じている教員もいるため、長時間勤務を制限することでやる気を阻害する心配がある。

## 【取組1】働きやすい環境を構築するための方策

### ⑧ 地域の人材の有効活用

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 学校評議員や学校運営協議会を効果的に活用し、学校と地域との連携を推進した。	71	89.9%
イ 地域の優れた指導力や知識等を持つ外部人材に新たに協力を依頼した。	38	48.1%
ウ 外部人材（指導者）と活動方針を共通理解した。	34	43.0%
エ 外部人材（指導者）に対し、指導者研修会への参加を促した。	6	7.6%
オ 以下の場面で外部人材（指導者）を活用した。		
（ア） 部活動	53	67.1%
（イ） 総合的な学習や郷土芸能、キャリア教育	54	68.4%
（ウ） 専門分野（工業、商業、特別支援など）	34	43.0%
（エ） 花壇等の環境整備や防犯	10	12.7%
カ その他	3	3.8%
キ 特に実施していない。	0	0.0%

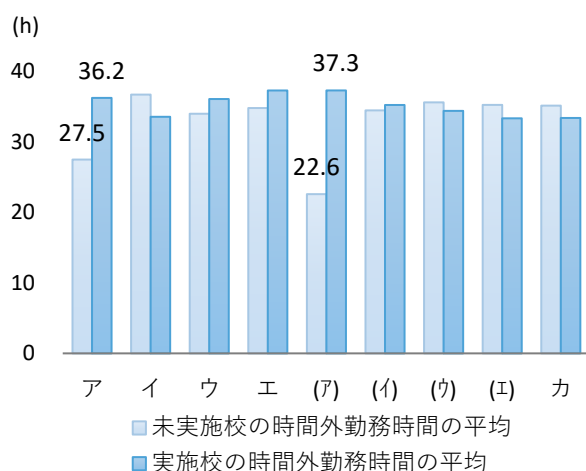
#### ※「その他」の主な取組

- ・ 学校行事について、保護者の協力が一層得られるよう働きかけた。
- ・ 地域の大学と連携協定を結び、外部講師の派遣依頼を簡素化できるようにしている。

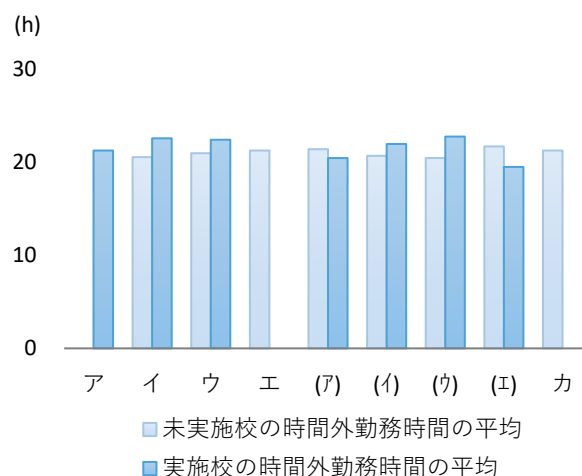
#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

（高等学校／教育職員）



（特別支援学校／教育職員）



#### ○ 主な課題

- ・ 外部人材の謝金等をどこから支出するか。
- ・ 部活動の外部コーチには、人物的に信頼のおける人をお願いしたいため、確保の面が課題である。

## 【取組2】部活動による負担を軽減するための方策

### ① 部活動数の精選

回答：県立高59校・特20校 計79校

(※部活動をしていない12校を除いて実施率を算定)

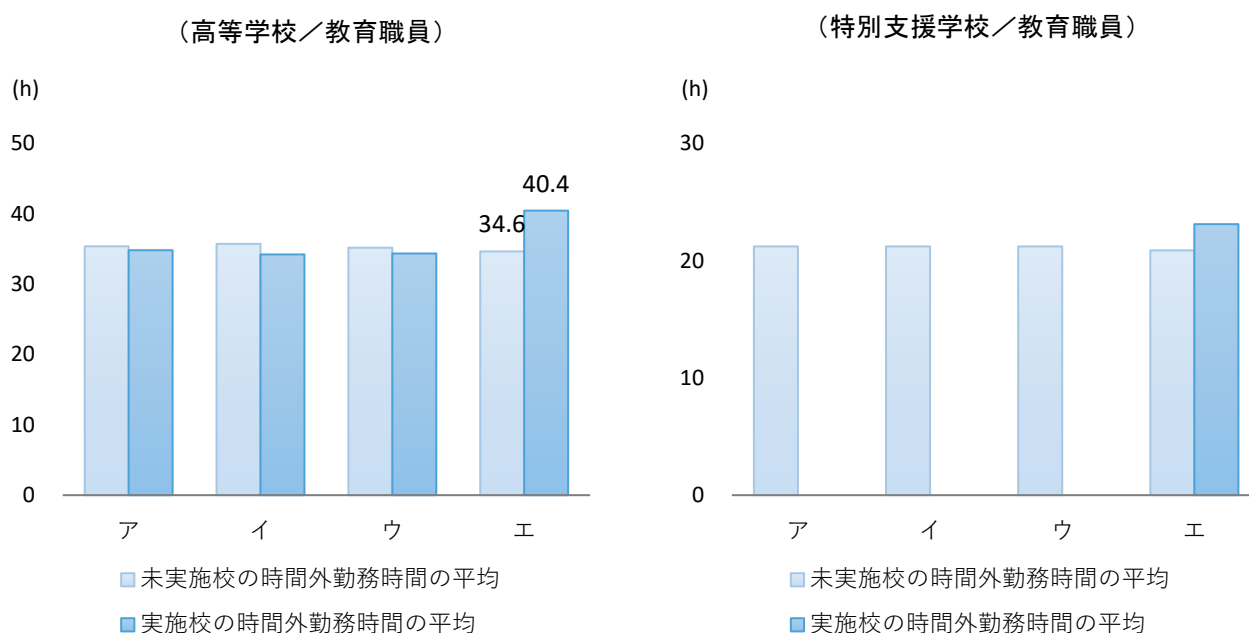
	回答数	実施率 (%)
ア 複数年にわたって、部活動の精選に取り組んでいる。	36	53.7%
イ 部員数が少なく、活動できない部活動または同好会は、廃部した。	27	40.3%
ウ 部活動の廃止に関する規定を見直した。	10	14.9%
エ その他	7	10.4%
オ 特に実施していない。	18	26.9%

#### ※「その他」の主な取組

- ・ 部活動検討委員会を設置し、部活の統廃合や規定の見直しに向けて取組を始めた。
- ・ 部活動は休部であるが、外部人材の活用を図り、放課後にスポーツが出来るよう取り組んでいる。
- ・ 臨時の顧問会議を開催し、R3から部活動の再編について検討する組織を立ち上げることにした。

#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。



#### ○ 主な課題

- ・ 生徒、卒業生、地域の意向があり、精選が困難である。
- ・ 外部人材ではなく、自らが部活動の指導をすることにやりがいを感じている教員もいる。
- ・ 生徒の希望がある限り、廃部にしたくないという職員や、部員が少なくても、他校と合同チームで活動をしたいという職員もおり、精選が困難である。
- ・ 生徒の減少により1部活の廃部と1部活の生徒募集を停止したが、職員数も減っており、効果を出すためには、さらなる精選が必要である。

## 【取組2】部活動による負担を軽減するための方策

### ② 活動内容の制限（標準的な活動内容の共通理解）

回答：県立高59校・特20校 計79校

(※部活動をしていない12校を除いて実施率を算定)

	回答数	実施率 (%)
ア 「運動部活動の指針」や「文化部活動の指針」を踏まえた部活動となっているか、定期的に確認した。	42	62.7%
イ 保護者等に対して、部活動の活動方針や活動計画を説明し、共通理解を図った。	34	50.7%
ウ 毎週、部活動の休養日を設けている。	54	80.6%
エ シーズンオフには休養日を多く設けている。	50	74.6%
オ 平日の終了時間を決めている。	56	83.6%
カ 年間の大会計画をペーパーで配付し、生徒、保護者からの理解・信頼を得るよう取り組んでいる。	26	38.8%
キ その他	1	1.5%
ク 特に実施していない。	0	0.0%

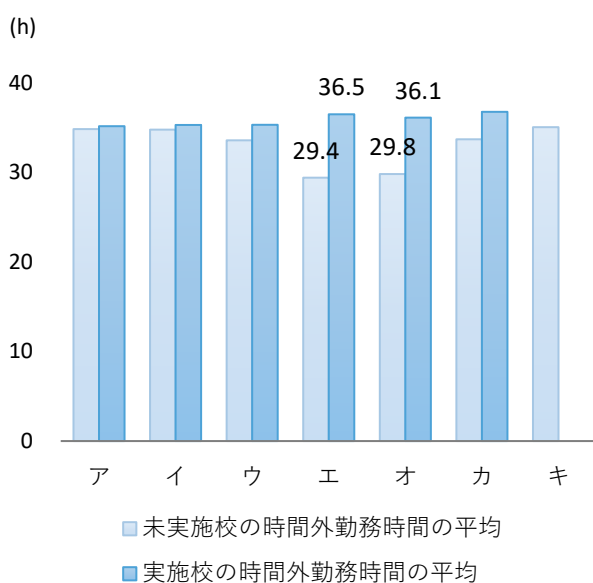
#### ※「その他」の主な取組

- ・ 中学部は放課後に学習会があるため、活動回数の上限を週1回としている。

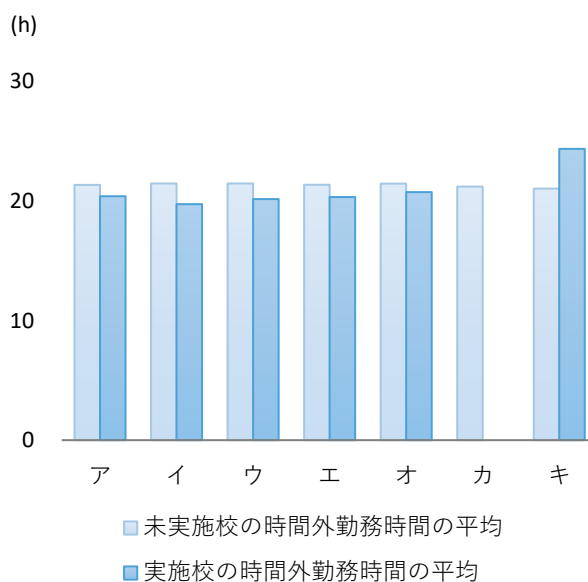
### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



### ○ 主な課題

- ・ 意欲的に部活動指導を行っている教員に対して、それを制限することでやりがいや熱意が失われないか心配である。

### 【取組3】会議・打合せを効率化するための方策

#### ① 会議等の運営方法の工夫

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 会議、打合せの必要性を精査し、回数を削減した。	47	59.5%
イ 年間計画に位置付けるなど、会議の時間帯の割振り等を工夫した。	51	64.6%
ウ 会議への出席を必要最小限の人数にするとともに、効率的な運営を行った。	35	44.3%
エ グループウェア等を活用して情報共有した。	61	77.2%
オ その他	1	1.3%
カ 特に実施していない。	2	2.5%

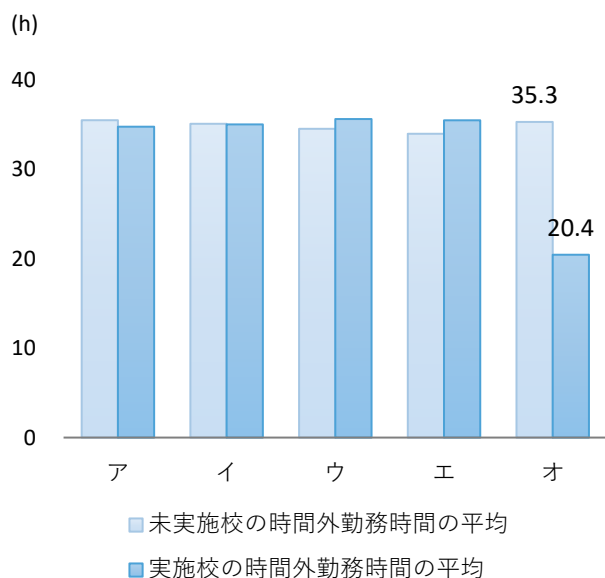
#### ※「その他」の主な取組

- 資料を事前配布するなどして、効率化を図った。

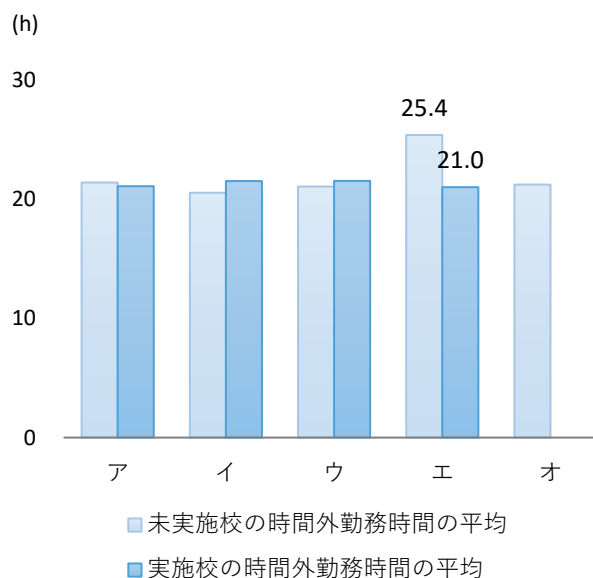
#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



#### ○ 主な課題

- グループウェアの有効的な活用方法の模索が必要である。

### 【取組3】会議・打合せを効率化するための方策

#### ② 会議等の資料の取扱いの工夫

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 配布資料は必要最小限とした。	49	62.0%
イ 校内グループウェアや閲覧等を活用し、会議資料等を電子データで共有・閲覧した。	56	70.9%
ウ 資料を事前に配付し、説明に要する時間を効率化した。	56	70.9%
エ その他	2	2.5%
オ 特に実施していない。	1	1.3%

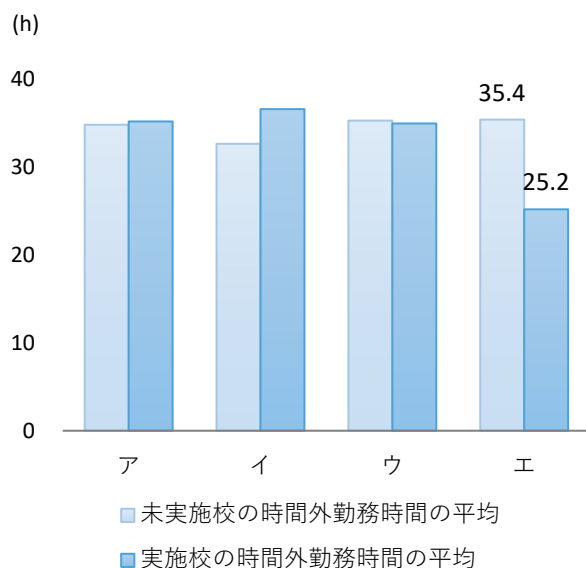
#### ※「その他」の主な取組

- ・ 職員数が多く、会議資料の準備のために教務部の負担が大きかったため、会議資料は電子データで提供し、各自が印刷するか、各自のパソコンから会議資料を読むことを推奨した。

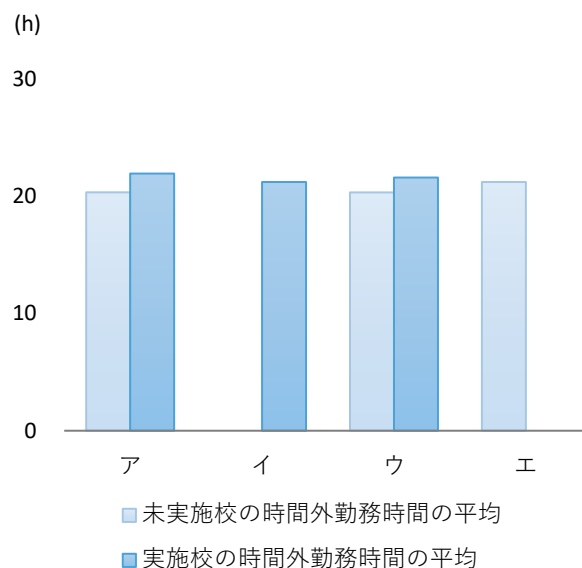
#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



#### ○ 主な課題

- ・ 会議資料の事前配布が間に合わない。
- ・ グループウェアの有効的な活用方法の模索が必要である。

## 【取組4】成績処理、その他の事務処理を効率化するための方策

### ① 校務へのICT活用の推進

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 指導要録を電子データ化した。	61	77.2%
イ 通知票を電子データ化した。	77	97.5%
ウ 調査書を電子データ化した。	67	84.8%
エ 成績処理システムを導入した。	54	68.4%
オ その他	1	1.3%
カ 特に実施していない。	0	0.0%

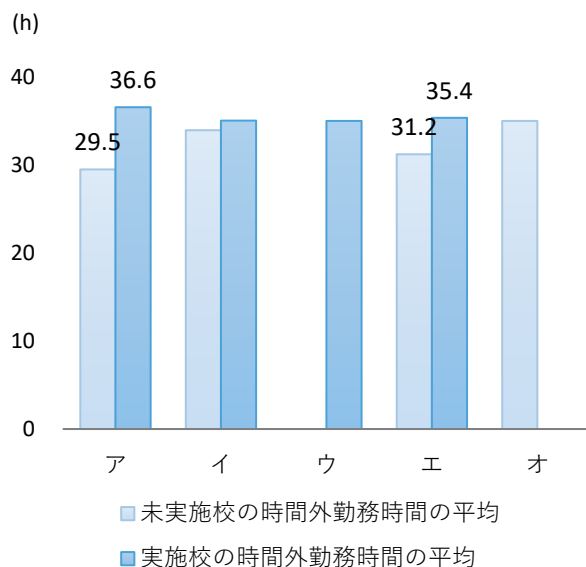
#### ※「その他」の主な取組

—

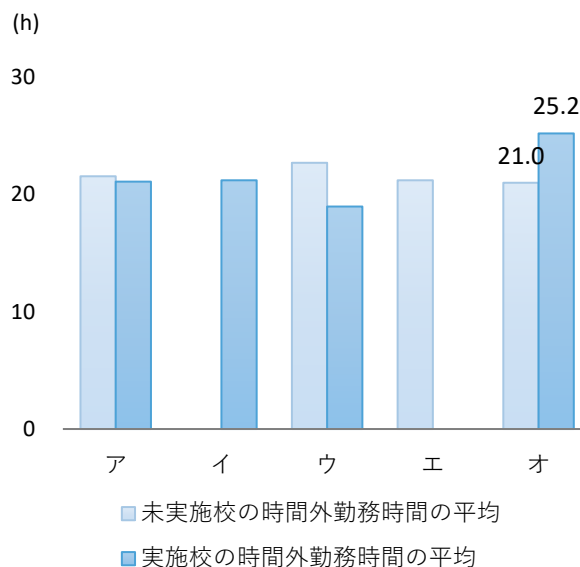
#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



#### ○ 主な課題

- ・ ICT化に対応するための教職員のスキル向上が必要である。
- ・ システムトラブルが多い。

## 【取組4】成績処理、その他の事務処理を効率化するための方策

### ② 報告書の様式等の簡素化

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 学校独自の報告書等を精査し、様式や手続きを簡素化した。	20	25.3%
イ 簡易起案の導入するなど、簡素化した。	52	65.8%
ウ 復命書について、簡易復命を活用した。	61	77.2%
エ その他	1	1.3%
オ 特に実施していない。	6	7.6%

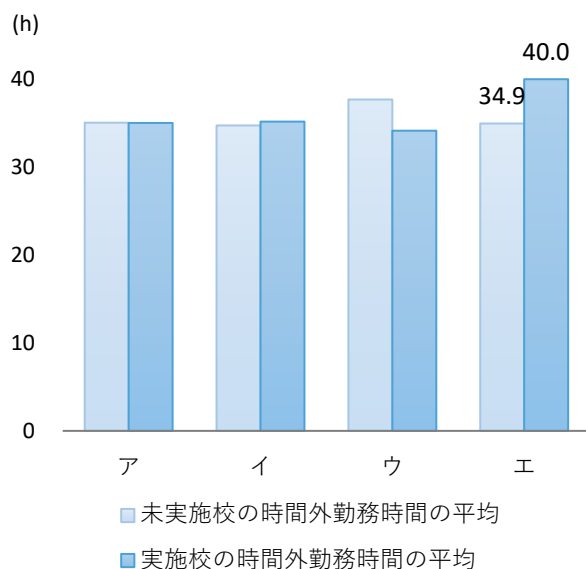
#### ※「その他」の主な取組

- ・ 旅行何の様式と、事務手続を簡素化した。

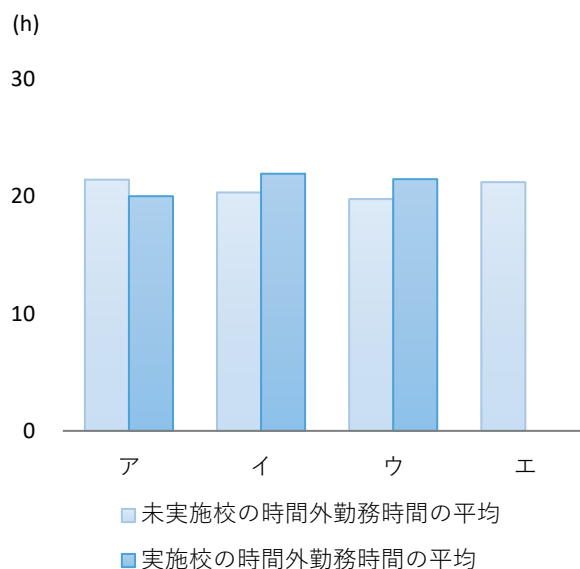
#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



#### ○ 主な課題

—



## 【取組4】成績処理、その他の事務処理を効率化するための方策

### ③ 教育委員会が実施する調査等への対応

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 校内のネットワークを通じて、共有データを利用している。	52	65.8%
イ 回答したファイルについては、共有のため保存を徹底し、次年度以降に活用できるようにしている。	74	93.7%
ウ 調査や提出書類のデータベースを作成し、計画的に業務を進めている。	23	29.1%
エ その他	0	0.0%
オ 特に実施していない。	2	2.5%

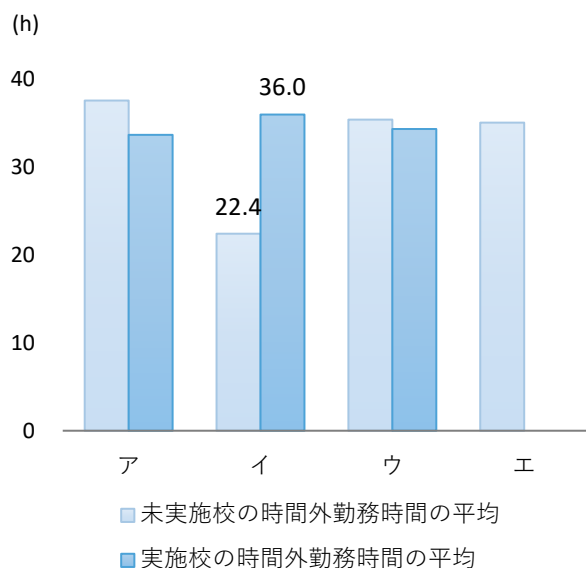
#### ※「その他」の主な取組

—

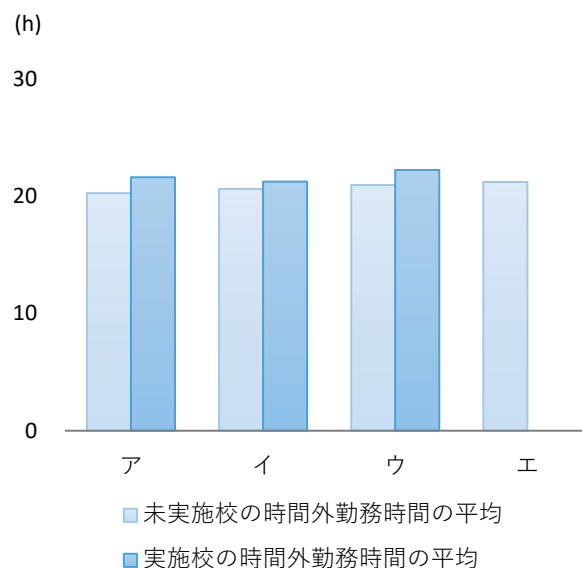
#### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



#### ○ 主な課題

- 共有サーバーを活用しやすいよう、整理が必要である。

## 【取組4】成績処理、その他の事務処理を効率化するための方策

### ④ 学校徴収金の口座振替の推進

回答：県立高59校・特20校 計79校

	回答数	実施率 (%)
ア 口座振替を実施している。	72	91.1%
イ その他	2	2.5%
ウ 特に実施していない。	5	6.3%

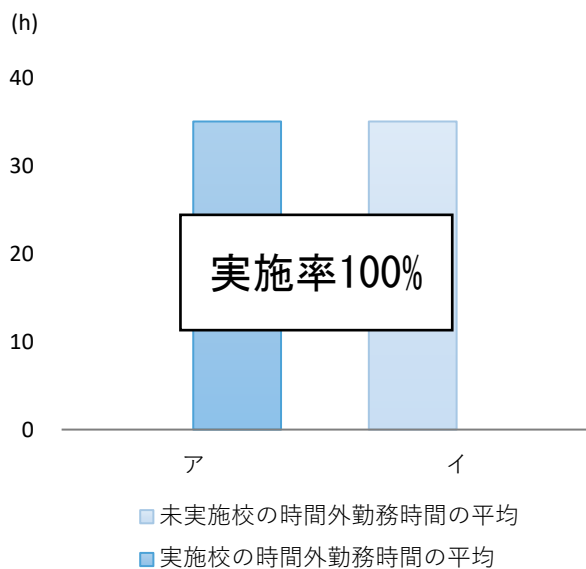
#### ※「その他」の主な取組

- ・ PTA会費は郵便振込による一括納入を実施している。

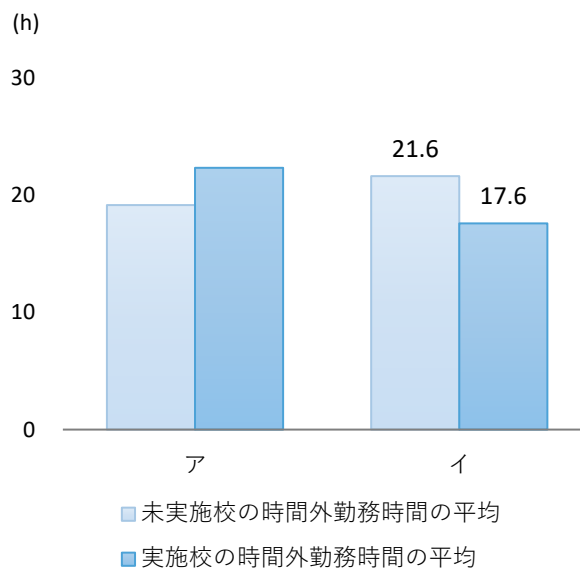
### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。

(高等学校／教育職員)



(特別支援学校／教育職員)



### ○ 主な課題

- ・ 口座の残金が振替期日までに不十分な家庭が多く、督促が事務職員の負担となっている。

## 【取組5】学校行事の負担を軽減するための方策

### ① 学校の規模や地域の実情等に見合った行事の見直し

回答：県立高59校・特20校 計79校

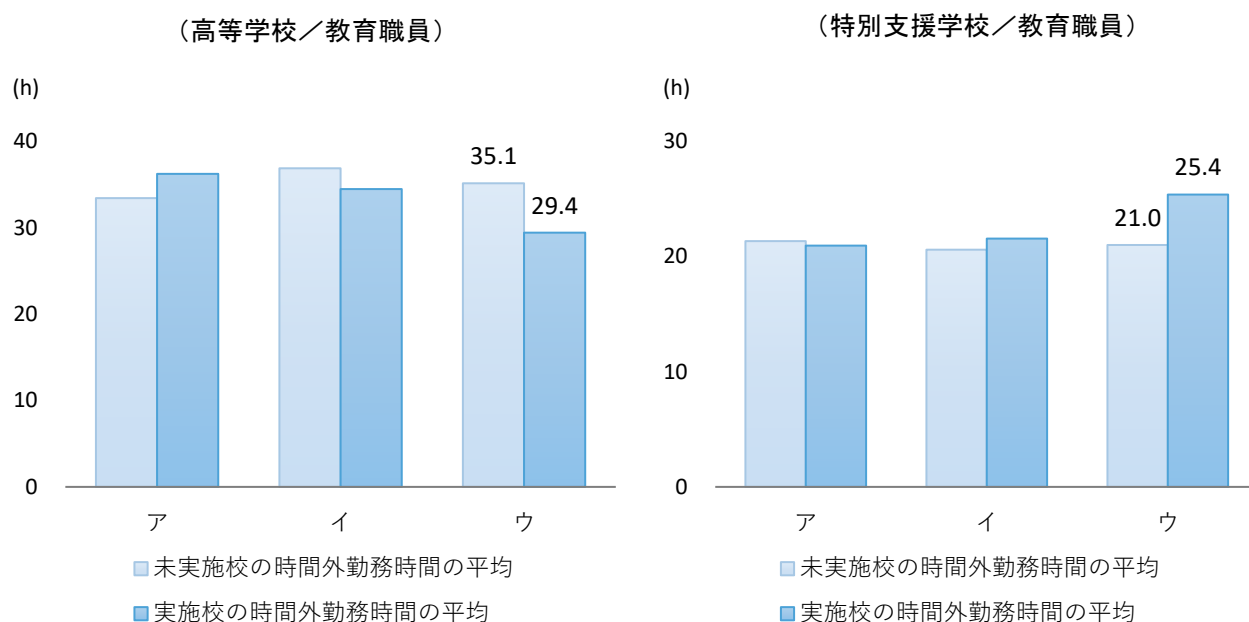
	回答数	実施率 (%)
ア 学校行事を精選するとともに、学校、家庭、地域が連携して対応する体制を構築した。	40	50.6%
イ 学校行事に係る指導のあり方等について教職員間で共通理解を図った。	58	73.4%
ウ その他	2	2.5%
エ 特に実施していない。	8	10.1%

#### ※「その他」の主な取組

- ・ 簡素化も含め、毎年行事の見直しを行っている。

### ○ 各取組における実施校と未実施校との一箇月当たりの時間外勤務時間の比較

実施校と未実施校とで4時間以上の差がある項目について数値を表示。



### ○ 主な課題

- ・ 地域と連携する体制が構築されていない。
- ・ R2は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からの学校行事の精選であり、本来の意味での学校行事の精選は、今後検討していく必要がある。

### (3) 学校における働き方改革に係る課題

※各校の回答から抜粋。

業務の種類	長時間勤務の要因	
部活動	<p>1 引率業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○引率業務は外部人材に任せることが出来ない。</li> <li>○人手不足により、一人の職員が複数の部活動を受け持たなければならない。</li> <li>○大会時期が偏っており、遠征が重なる等、特定の時期に多忙化する。</li> </ul>	
	<p>2 放課後や週休日など通常の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○外部人材の確保が困難で、依然として教職員が指導せざるを得ない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者として信頼できる人材の確保が難しい。</li> <li>・謝金をどこから捻出するか。</li> </ul> </li> <li>○部活動の精選が進まない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や卒業生、地域住民の理解が得られない。</li> <li>・部活動の指導を生きがいとしている教職員もいる。</li> </ul> </li> </ul>	
	<p>3 経験の無い部活動の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指導方法の勉強等に時間がかかる。</li> </ul>	
	<p>4 高体連役員の事務作業</p>	
	学習指導 進路指導等	<p>1 多様化する大学入試制度への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合型選抜や学校推薦型選抜を希望する生徒が増加している。</li> <li>○従来の1～2月の出願の他に、秋口にも出願があり、3年次と進路指導部の入試対応の時期が長期間化している。</li> <li>○部活動の大会時期と3年生の進路指導時期が重なっている。</li> </ul>
		<p>2 多様な生徒に対応するためのきめ細やかな指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別指導のための授業準備が多い。</li> <li>○理科や地歴公民は放課後講習が多い。</li> <li>○進路希望に沿った細かい教育課程を組んでいるため、一人当たりの科目数が多くなる。</li> <li>○総合学科の特徴である多様な選択科目を確保するため、一人当たりの科目数が多くなる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究に要する時間が増加している。</li> </ul> </li> <li>○悩みや問題を抱えている生徒について、担任や学年主任が対応している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーが常勤でないため。</li> </ul> </li> </ul>

### (3) 学校における働き方改革に係る課題

※各校の回答から抜粋。

業務の種類	長時間勤務の要因	
複数担当制	<p>1 複数担当制による業務量の増加</p> <p>○副担当者を設けても、主担当者が一人で業務をこなしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副担当者の業務が不明確で、業務を振り分けることができない。</li> <li>・副担当者の業務が不明確で、主担当者任せとなっている。</li> <li>・主担当者としての責任感があるため。</li> </ul> <p>○負担軽減のためではなく、人手不足から一人2分掌以上を担当せざるを得ない。</p>	
	<p>2 専門性のある業務</p> <p>○特別支援教育や専門性のある部活動の指導は、特定個人に頼らざるを得ない。</p> <p>○PCや情報処理関連業務では、「分からない」という理由で、精通している職員に任せてしまう。</p>	
	その他の活動	<p>1 休日のボランティア活動やイベントへの参加</p>
		<p>2 各種協議会や委員会活動への参加</p>
教職員の意識	<p>1 生徒一人一人への手厚い指導</p> <p>○手厚く指導することに教員としてのやりがいを感じている。</p> <p>○意欲的に指導している職員の勤務時間を制限をすることは、熱意を阻害する恐れがあるため、勤務時間の削減を強く働きかけることができない。</p>	
	<p>2 年次休暇を取得しづらい雰囲気</p>	

## 7 時間外勤務時間集計結果 (高等学校・特別支援学校)

1 高等学校		
(1) 教育職員	.....	30
(2) 教諭・講師	.....	32
2 特別支援学校		
(1) 教育職員	.....	34
(2) 教諭・講師	.....	36

※1 常勤の臨時職員を含む。

※2 栄養教諭は、教諭を含む。

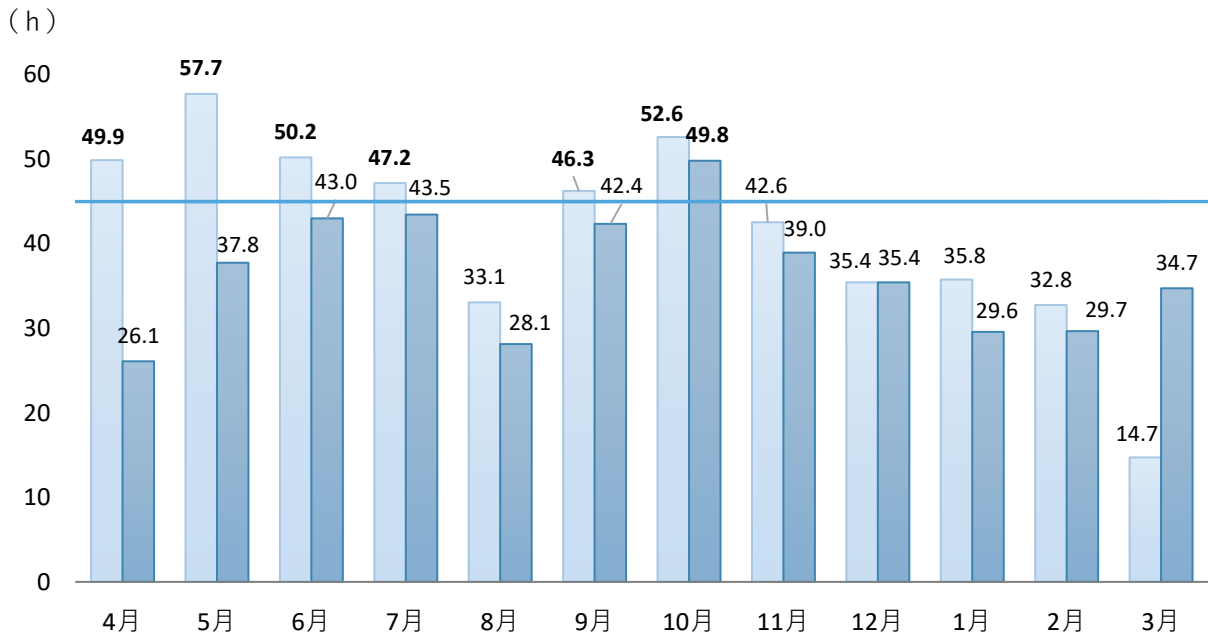
# 1 高等学校

## (1) 教育職員

※ n = 回答者数、h = 時間

※左 : R1実績、右 : R2実績

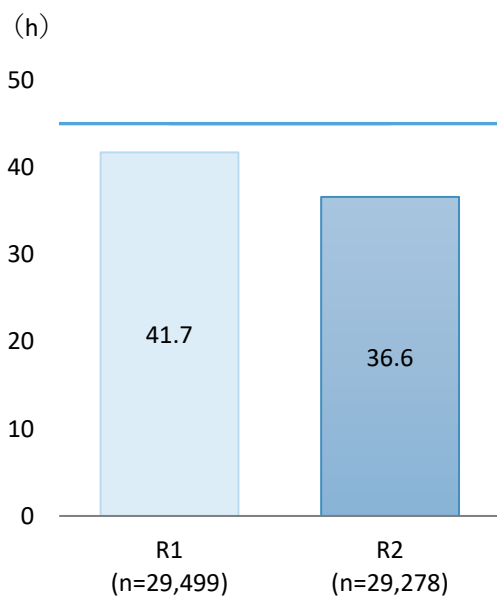
### ① 一箇月当たりの時間外勤務時間（月平均）



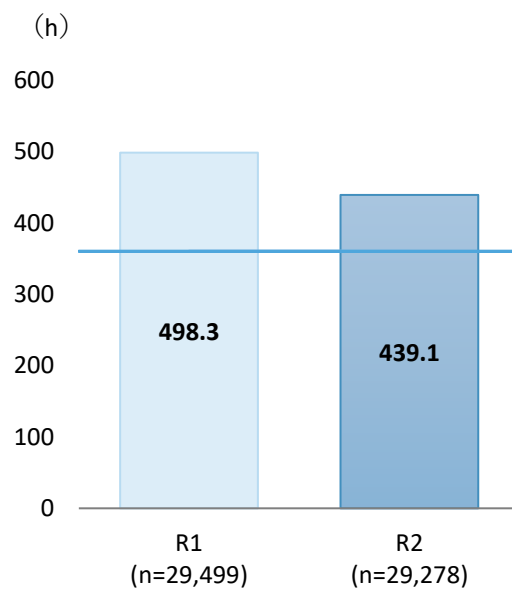
(n)

R2	2,443	2,446	2,447	2,443	2,442	2,442	2,435	2,434	2,435	2,439	2,438	2,434
R1	2,471	2,469	2,468	2,475	2,476	2,470	2,469	2,468	2,466	2,468	2,467	2,332

### ② 一箇月当たりの時間外勤務時間（年平均）



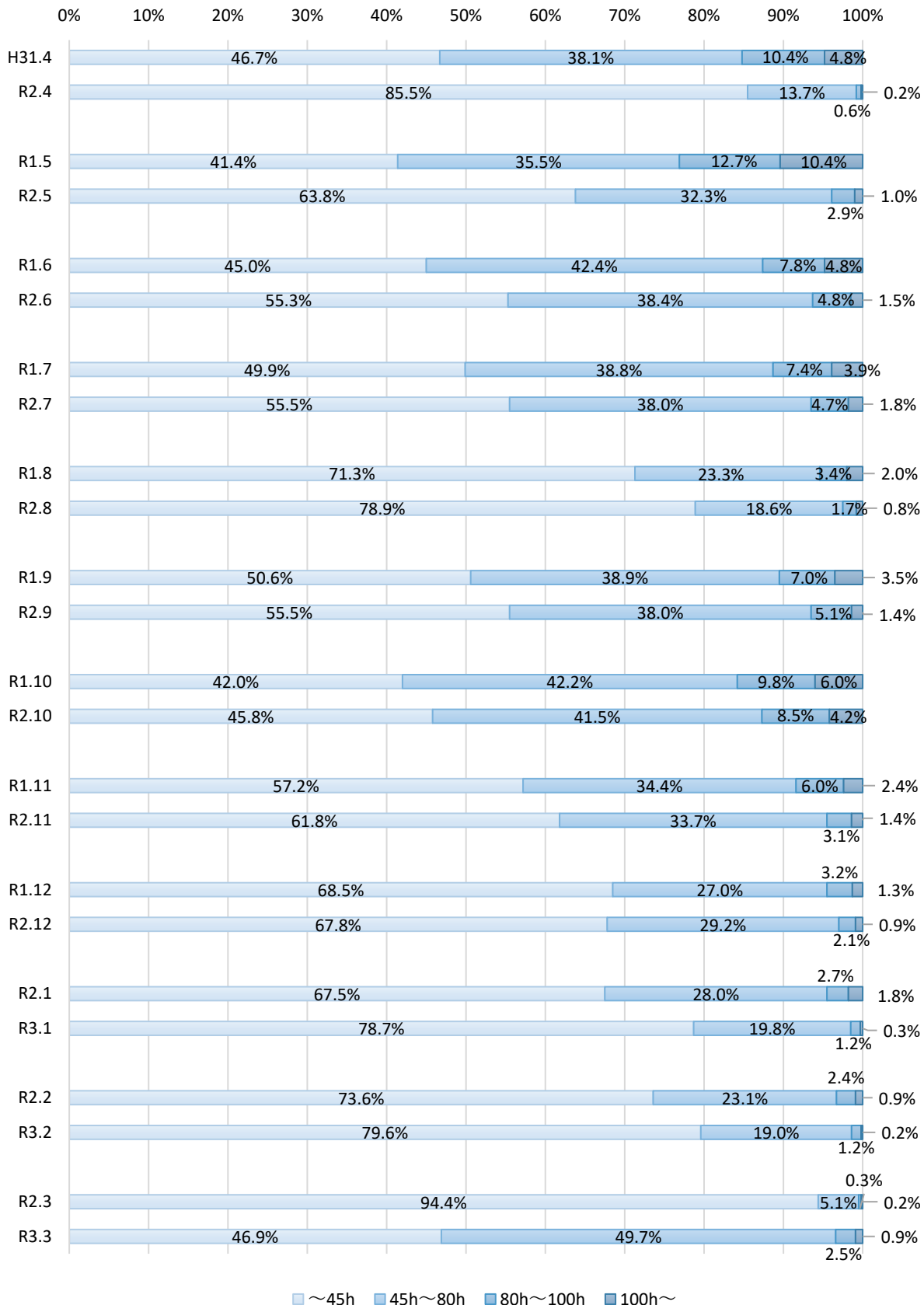
### ③ 一年当たりの時間外勤務時間



# 1 高等学校

## (1) 教育職員

### ④ 時間外勤務時間帯の割合





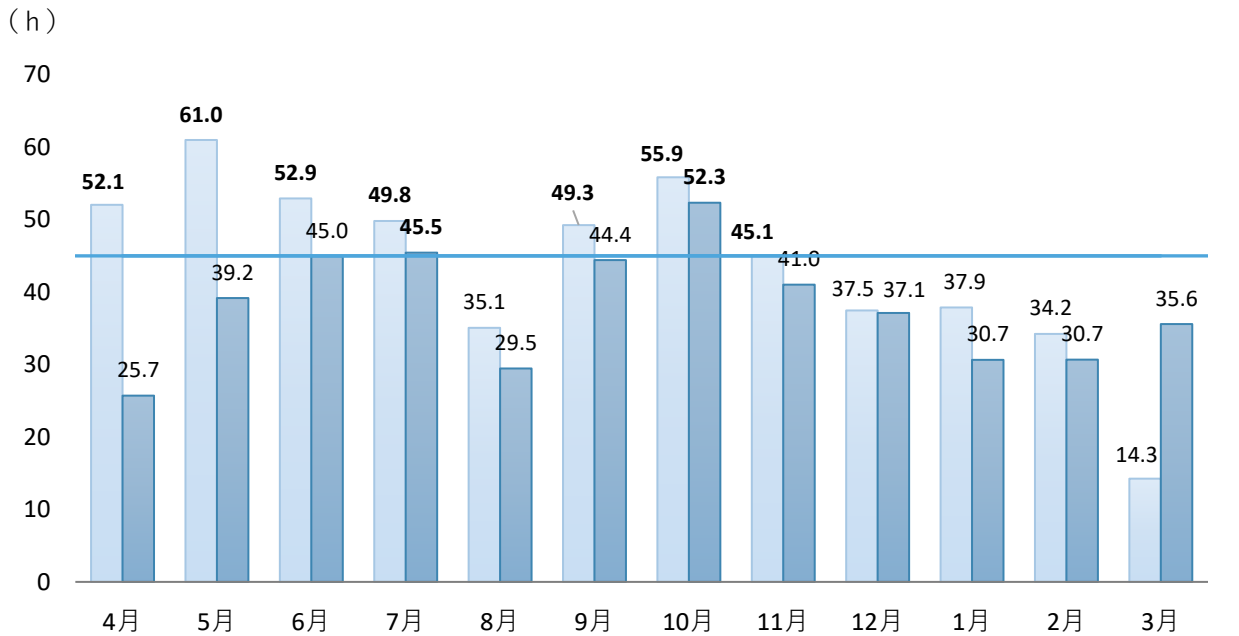
# 1 高等学校

## (2) 教諭・講師

※ n = 回答者数、h = 時間

※左：R1実績、右：R2実績

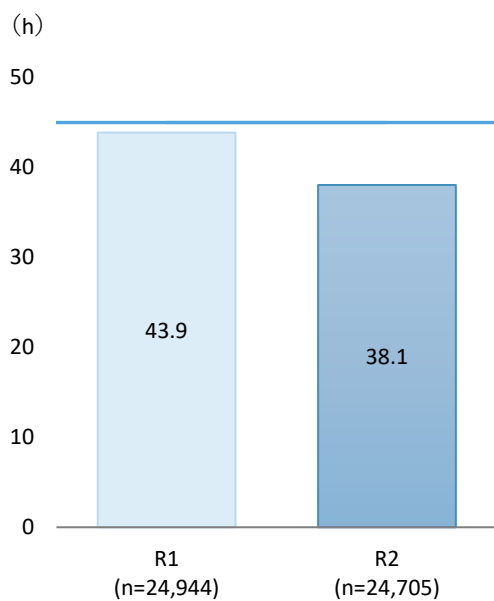
### ① 一箇月当たりの時間外勤務時間（月平均）



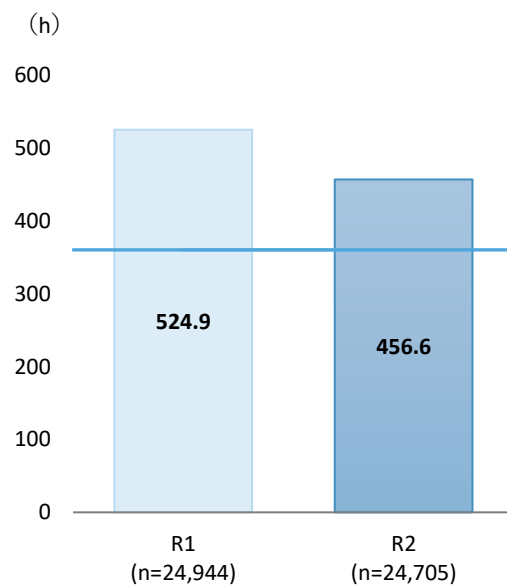
(n)

R2	2,060	2,064	2,065	2,061	2,061	2,061	2,055	2,054	2,055	2,058	2,057	2,054
R1	2,091	2,089	2,088	2,093	2,094	2,089	2,088	2,086	2,084	2,087	2,086	1,969

### ② 一箇月当たりの時間外勤務時間（年平均）



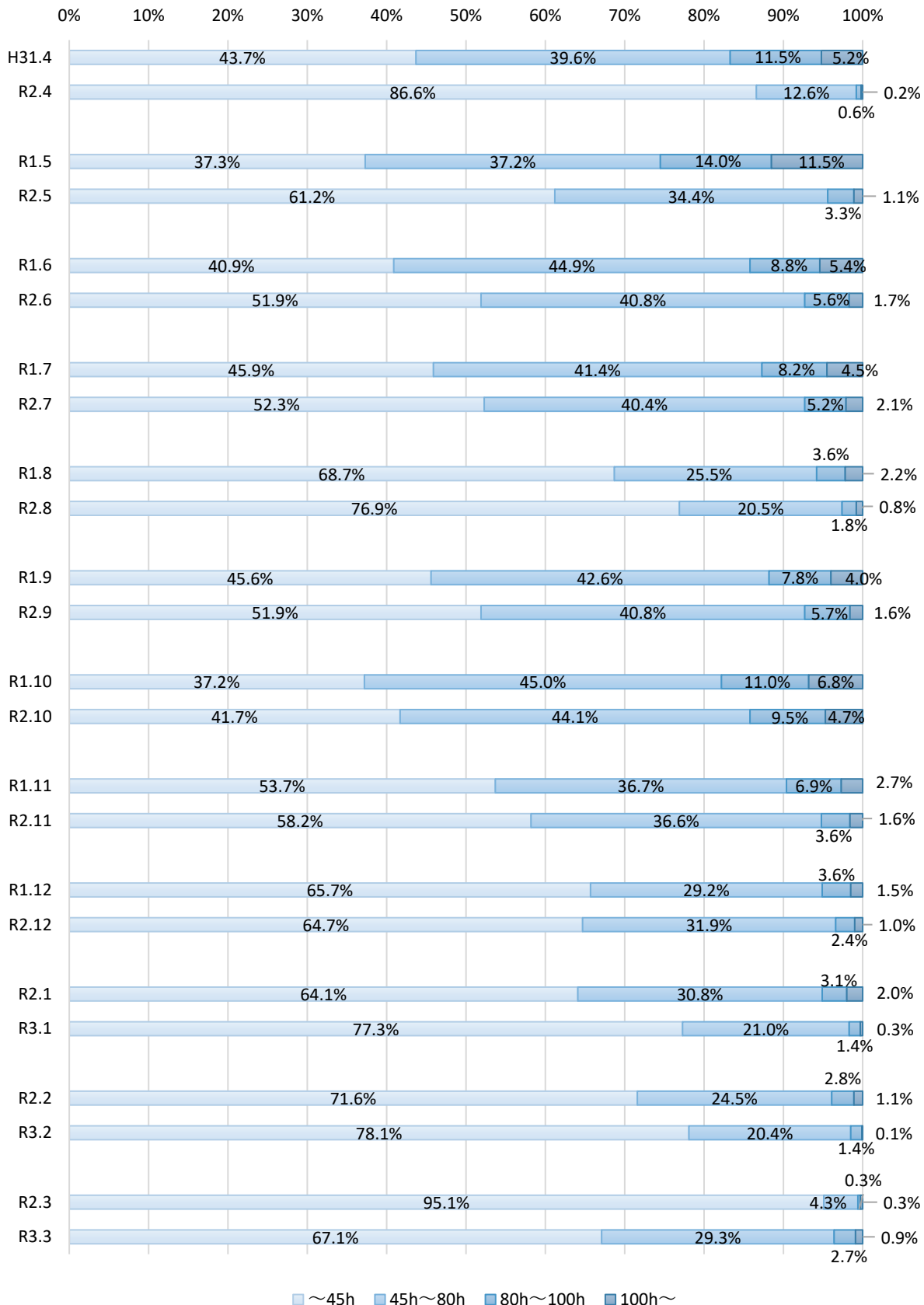
### ③ 一年当たりの時間外勤務時間



# 1 高等学校

## (2) 教諭・講師

### ④ 時間外勤務時間帯の割合



## 2 特別支援学校

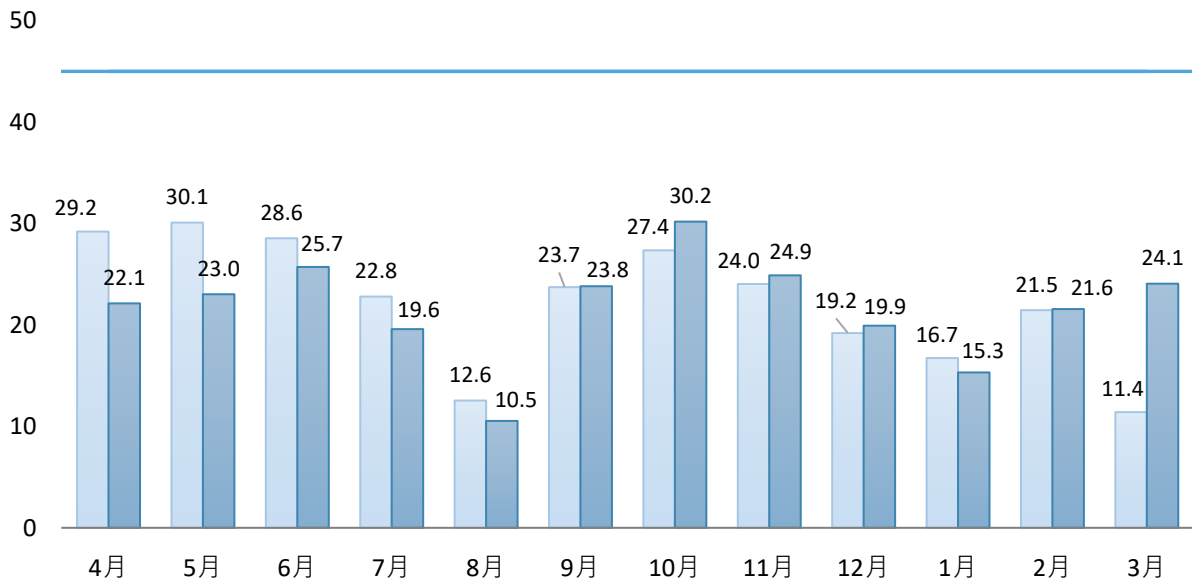
### (1) 教育職員

※ n = 回答者数、h = 時間

※左：R1実績、右：R2実績

#### ① 一箇月当たりの時間外勤務時間（月平均）

(h)

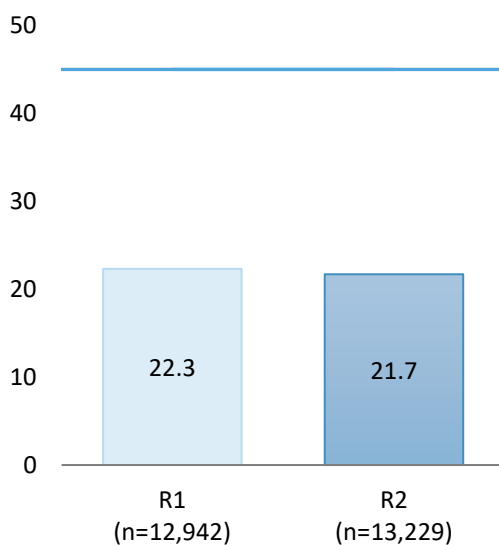


(n)

R2	1,100	1,100	1,101	1,101	1,102	1,103	1,103	1,102	1,100	1,103	1,106	1,108
R1	1,079	1,079	1,082	1,080	1,082	1,086	1,088	1,087	1,089	1,088	1,086	1,016

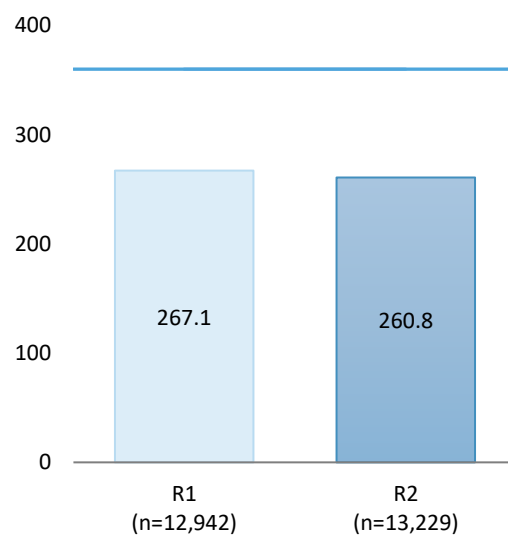
#### ② 一箇月当たりの時間外勤務時間（年平均）

(h)



#### ③ 一年当たりの時間外勤務時間

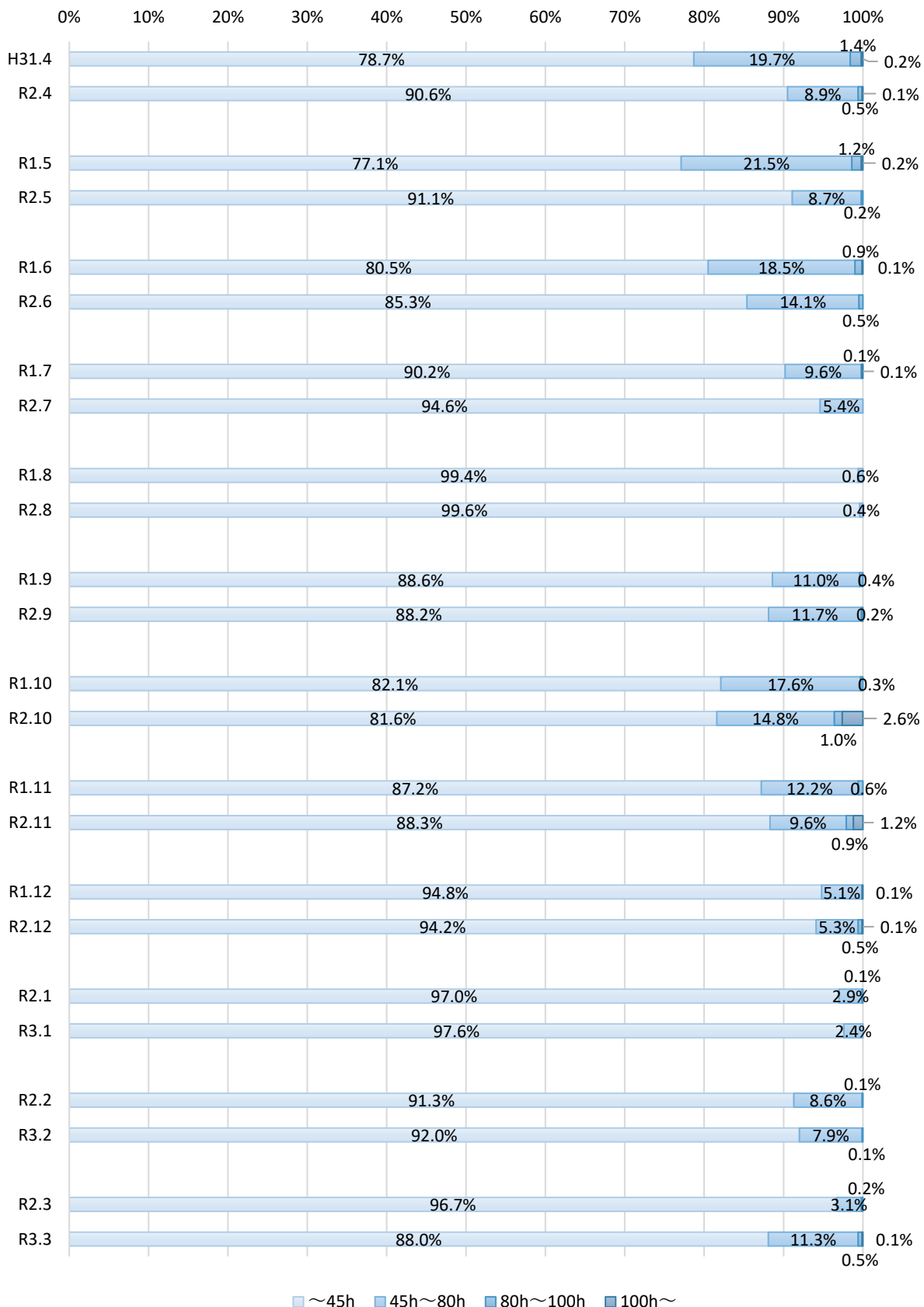
(h)



## 2 特別支援学校

### (1) 教育職員

#### ④ 時間外勤務時間帯の割合



## 2 特別支援学校

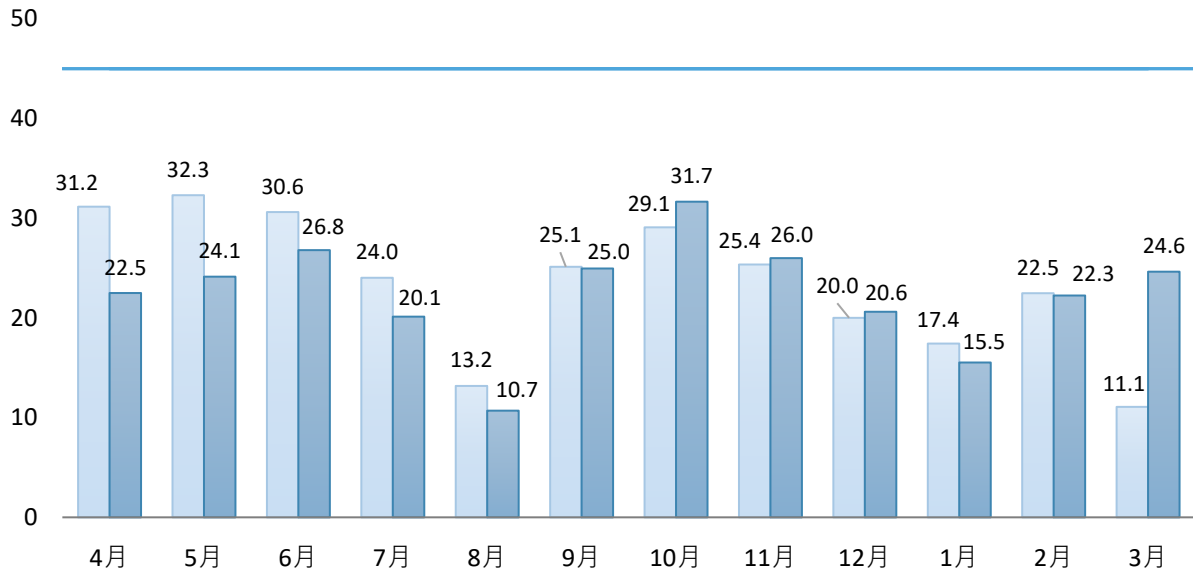
### (2) 教諭・講師 ※栄養教諭を含む

※ n = 回答者数、h = 時間

※左：R1実績、右：R2実績

#### ① 一箇月当たりの時間外勤務時間（月平均）

(h)

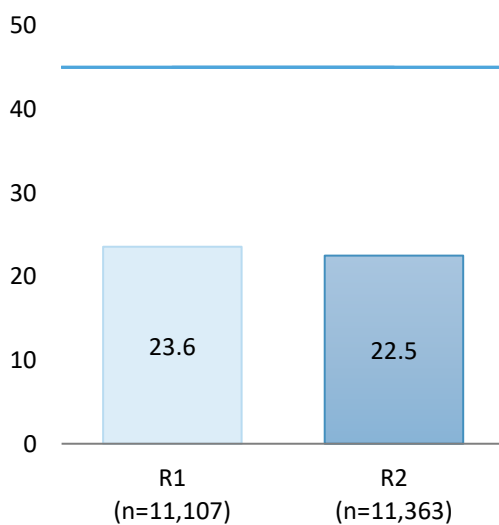


(n)

R2	946	944	945	946	946	947	947	946	944	948	951	953
R1	925	925	929	928	929	933	934	933	935	934	932	870

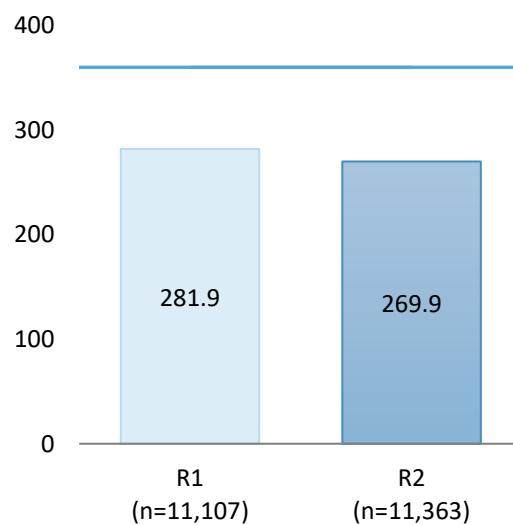
#### ② 一箇月当たりの時間外勤務時間（年平均）

(h)



#### ③ 一年当たりの時間外勤務時間

(h)



## 2 特別支援学校

### (2) 教諭・講師 ※栄養教諭を含む

#### ④ 時間外勤務時間帯の割合

